

眩

高麗陣日記中卷^卅丁吉州より飛脚到來の條に、人夫雪焼ニアヒテ、手足不叶、或ハ鳥目ニナリ、役ニタ、ズと見ゆ、今俗に霜焼といふも有、

〔倭名類聚抄^三〕眩 釋名云、眩音懸、和名女久、懸也、目所視動亂如懸物、搖々然不定也、

〔箋注倭名類聚抄^二〕曲直瀨本、下總本作音縣、並與廣韻合、按醫心方訓女久、流女久、空物語、新撰字

鏡、眩訓目女久留、^略○^中所引釋疾病文、今本作遙々、太平御覽引與此同、按說文、有搖無遙、知搖遙古

今字、又按說文、眩目無常主也、

〔異疾草紙〕ちかごろ男ありけり、風病によりて、ひ。と。み。つ。ね。に。ゆ。る。ぎ。け。り、嚴寒にはだかにてゐたる人の、ふるひわな、くやうになむありける、

珠管

〔伊呂波字類抄^志〕珠管目病也、

〔醫心方^五〕治目珠管方第十九

病源論云、目、珠管者、風熱、淡飲積於藏府、使肝藏血氣、蘊積衝發於眼、津液變生結聚、狀如珠管也、

〔醫名彙解^六〕珠管シユツヅ 又目珠管ト云リ、病源ニ云、目是五藏ノ精華、宗脈ノ聚ル所ナリ、モシ風熱痰飲

臟腑ヲ漬セバ、肝ノ藏ヲシテ血氣蘊積シ、衝テ眼ニ發シ、津液變ジテ結聚ヲナシ、狀、珠管ノ如ナラ

シム、按ルニ、目中へ珠ノ管ノ如ナル朮肉ノ生ズル義ナルベシ、

〔諸病源候總論^{二十八}〕目珠管候

目是五臟六腑之精華、宗脈之所聚、肝之外候也、肝藏血、若府藏氣、血調和、則目精彩明淨、若風熱痰

飲漬於臟腑、使肝藏血氣蘊積、衝發於眼、津液變生結聚、狀如珠管、

〔倭名類聚抄^三〕聾耳 病源論云、聾耳上音亭、和名美々太利、風熱耳生膿汁也、

〔箋注倭名類聚抄^二〕醫心方同訓、按美々太利、耳垂之義、醫心方又亭耳、訓美々久曾、與聾混誤、^中

略 諸病源候論五十卷、隋巢元方等撰、新唐書亦云、巢氏諸病源候論、現在書目錄載云、病源論、與此

聾耳